

### 目次

- ・山西利和くん, ユニバーシアードで金メダルを獲得! ……松原 厚 (p. 1)
- ・“完結工程造りと全員参加” ……加藤健治 (pp. 2-3)
- ・平研・大谷研同窓会 ……土井健志 (pp. 3-4)
- ・卒業59周年京岬会(昭和33年卒)同窓会 ……中村弥寿家 (pp. 4-5)
- ・昭和43年卒同期会の報告 ……熊澤正博 (p. 6)

## 山西利和くん, ユニバーシアードで金メダルを獲得!

松原 厚 (S60/1985卒) 代表幹事



台北で8月に開催された第29回ユニバーシアード競技大会 ([http://www.joc.or.jp/games/univ/2017\\_summer/](http://www.joc.or.jp/games/univ/2017_summer/)) において、山西利和くん(工学部4回生, 杉江研究室)が陸上20km競歩の個人と団体両方の種目で金メダルを獲得しました。ユニバーシアードは国際大学スポーツ連盟が主催する総合競技大会で、全世界の学生たちが集まるので、「学生のためのオリンピック」と呼ばれています。山西利和くんの快挙を讃えたいと思います。



⑦野田明宏 (7位: 明治大) ⑨山西利和 (1位: 京都大) ⑧及川文隆 (3位: 東洋大)

## “完結工程造りと全員参加”

加藤健治（S43/1968卒）

先回、米国、ドイツ、中国のモノづくりについて日本と比較しました。

日本は、“全員が主体的に参加すること”が特徴と述べました。この、全員参加は、“悪いものは造らない、”“完結工程造り”のためにも必須と考えます。

“工場から悪いものを出さない工場完結では未達”で、“チームで保証するライン完結でも未達で”、“全員主役で、悪いものを造らない自工程で保証する自工程完結化”が日本の特徴と考えました。

さらに、“人から与えられた指示によって、自分は行動する、”という考え方は自分の本音ではありません。緊急時、実際の行動と異なることがあります。緊急問題が生じた時、本音の行動をとっさにとって、それが作業標準で決めた作業、と異なり、失敗した例、皆の迷惑になるのではないかと思ひ、ラインを止めなかったもので、かえって、大きな問題となった例を何度か、見てきました。“自分が納得して自分が決めた行動基準（作業標準）で行動する”、ということでない、いざという場合100%の本音の行動にならないのです。

管理者は、“躊躇せず、止めろ”と言ひ続け、問題発生時早く止められた時、誉めることも必要になります。

“流出防止から発生防止に”、“ライン完結から自工程完結に”“再発防止から未然防止に”、するためには、全員参加とそのための組織、管理者の動きは次の通りと考えます。

- ①全員を巻き込み育てる活動。QCサークル活動、創意工夫提案制度による提案活動。改善活動。
- ②全員が納得、理解できる方法、行動基準づくり。自分たちで決める行動基準（人から与えられたものではない。決めることができる意欲と努力。作業標準、品質チェック標準、QAネットワーク、ポカよけ、不良ゼロライン等、不良品現物展示、など。
- ③全員の啓蒙、工夫を見合い研鑽する生産部門の場造り
- ④高度な専門技術を持つ技術員室、保全部門等によるバックアップ
- ⑤全員理解できる原則：“悪いものを造らない”“清い流れで物を造る”
- ⑥成果、発表ができる場造り

⑦能力あるバックアップ兼推進専門部隊

⑧新人教育用道場、実習教育の場など

⑨上司の言行一致本音の活動 上司が本音で品質第一と考えていることを、態度で示さねばなりません。“異常発見したら、躊躇せずラインを止めよ”と常に言い続けることと、“素早く止めたとき、皆の前でほめる態度”で本音を示さねばならないと思います。

全自動ラインでも考え方は同じと考えます。初期の全自動の部品組み付けラインを持ったことがあります、

①止まったとき、原因究明、安全に修理するためのスペース、腕、体が入るスペースがなく、修理時間、部品交換調整時間に長くなり、かえってライン全体の稼働率を落としました。

②能力の高い保全マンで対応するようにしましたが、全自動ラインでも“悪いものを造らない”ためには完結工程でなければなりません。

未然防止の設備保全標準と、保全のしやすさも作業標準に入ってきます。

成果は

①今造っているものに対しては、対象工程で対応できること、モデルチェンジの際の未然防止活動と、スムーズな立ち上がりにつながります。(いつもと同じように、停滞なく製品の切り替え準備、実施ができます。)

このために、上司のすることは、全員に徹底するために、

①言行一致の本音の活動 本音で品質第一と考えていることを態度で示さねばなりません。“異常と感じたら、躊躇なく止めろ”と言い続けること すばやく止めた人を 皆の前でほめること、

②現地現物の行動を見せること。

上司、技術員室、保全部隊も含めた全員の“完結工程と、本音の全員で悪いものを造らない”という活動が日本の特徴と考えます。

## 平研・大谷研同窓会

土井健志 (S45/1970卒)

平成29年10月14日(土)、京都タワーホテルにおいて平研・大谷研の同窓会を3



年ぶりに開催しました。参加者は65名でした。

今回は大谷名誉教授より卒業年次が上の先輩方にも案内をしましたが、出席は大先輩のS32年卒の坂戸様と田中様のお二人でした。大谷先生のスピーチに始まり、工学研究科長の北村教授と北條教授からは最近の大学の状況や先端研究の話をしていただきました。また、坂戸様からは懐かしいお話が披露されました。

その後、年次別のテーブル毎に近況報告や自由なスピーチを行い、皆様久し振りの再会を楽しむと共に、残念ながら欠席となった海外で活躍されている先輩方の近況も紹介されました。活発な歓談により予定の2.5時間はあっという間に過ぎ、同窓会は盛会裏に終わることができました。次回の幹事は、横幕・中井・武の3氏にお願いしました。



## 卒業59周年京岬会(昭和33年卒)同窓会

中村弥寿家 (S33/1958卒)

平成29年10月16日(月) 沼津リバーサイドホテルにて14名(1名所用遅刻)の参加のもと同窓会を開催。

1次会は梅本常任幹事の司会で、野田君の乾杯の音頭から始まり、全員による近況報告や懇談を進めた。来年は卒業60周年の節目の年であり行事について意見の交換をおこない次回も沼津にて1泊2日で開催し、翌日は観光バス旅行をすることになった。日程は平成30年10月15日(月)16日(火)

続いてショートスピーチ(小講演)を主体とする2次会(勉強会)をおこなった。

・京岬会を讃える詩歌の紹介

1) 京岬会(興味咲会)賛歌(狂歌?)1句 大林君

2) 風の広場(詩22節の大作) 倉田君

・小講演(ショートスピーチ)3題

1) 社会システムの不安 新田君

①貧富の格差 ②AI、ITの高度社会の到来 ③生物学技術の進歩 ④原子力発電の4課題。人間が神の領域を犯し始めている問題提議。神の領域とはの質問も。

2) クライメート事件 地球温暖化シンドロームの裏側 岸本君

地球温暖化防止活動を行うIPCC(国連組織)の根拠とする技術資料が作為的に作成され、温室ガスの増加が地球温暖化に結びついている説明資料が正しくないことを研究当事者が告白した事件。

3) ゼロ戦(ゼロ式艦上戦闘機) 梅本君

抜群の性能、設計思想、米国から見たゼロ戦、ゼロ戦の末期等

ゼロ戦の製造跡地(三菱重工)は現在、東レ(株)名古屋工場になっている。

最後に杉本君のハモニカの伴奏で「上を向いて歩こう」「故郷」「琵琶湖周航歌」の大合唱でお開きとなった。

尚、翌日の有志11名のゴルフコンペはあいにくの雨天で中止になった。



後列：小澤三敏、倉田武彦、中村弥寿家、杉本三郎、中村達、大林英彦、岸本秀弘

前列：梅本毅、池村澄男、野田忠吉、新田敏夫、上田一成、造田恵市



## 昭和 43 年卒同期会の報告

熊澤正博 (S43/1968 卒)

昭和 43 年卒同期会では、毎年関東、関西、中部等の支部が順番で同期会をアレンジしています。今年は関東支部の担当で平成 10 月 19 日(木)～20 日(金)の 2 日間、長野県上田市にて同期会を開催しました。

初日は上田電鉄の別所温泉駅に集合して、北向観音、安楽寺、常楽寺を見学して、国登録有形文化財に指定されている花屋に宿泊し、懇親会を実施しました。各地から 17 名が参加して、近況報告を始めとして、世界情勢、最近の企業の品質管理問題、衆議院議員選挙等々の話題に花が咲きました。

翌日は上田城址の見学を行い、昼食では松茸会食を楽しみました。紅葉には少し早い時期でしたが、秋の信州を満喫しました。

来年は中部支部が計画しますのでご期待ください。

